2027年3月期 上期（累計）

決算説明資料

2026年11月4日

ユナイテッド株式会社
（東証グロース：2497）

© UNITED, Inc.

2027年3月期の事業構成

中核事業　：連結全体の収益の柱となり、成長を牽引する事業。
育成中事業：今後の成長を企図し、次なる中核事業化を目指す事業。

中核事業

投資事業

UNITED

投資事業本部

イグジット注力による継続的な利益創出

教育事業

ベストコ

㈱ベストコ

新規教室の出店加速による売上高の成長

アドテク事業

UNITED Marketing Technologies

ユナイテッドマーケティング テクノロジーズ㈱（UMT）

広告取扱高の拡大による安定的な利益創出

育成中事業

採用支援

UNITED Recruitment

ユナイテッド・リクルートメント㈱

デザイナーマッチング

LIBASE

㈱リベイス

システム開発

Brewus

㈱ブリューアス

スポーツビジネス支援

iSM

㈱インターナショナル スポーツマーケティング

持分法適用会社：フォッグ㈱（議決権43.5%。2026年4月、IPOを見据えた外部資本受け入れにより連結子会社から異動）

アジェンダ

1　2027年3月期 上期（累計）決算概要 p.4

2　2027年3月期 第2四半期 事業概況 p.10

3　Appendix p.27

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、
実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

2027年3月期上期（累計）｜エグゼクティブサマリー

連結業績

事業ポートフォリオ組み換え影響※1を除くと上期はYoY※2+27%の増収・黒字転換。
通期は業績予想の範囲内での着地を見込む。

売上高	営業利益
4,012 百万円 YoY△7.0%	87 百万円 YoY+778百万円/黒字転換

事業別業績

	売上高	営業利益	
投資事業	876 百万円 YoY+200%	484 百万円 YoY+518百万円／黒字転換	✓ 保有有価証券の売却が業績に寄与 ✓ 2.1億円の新規投資、7.7億円の売却を実行
教育事業 [㈱ベストコ]	1,306 百万円 YoY+13%	△107 百万円 YoY △60百万円／2Qは黒字で着地	✓ 上期に14教室を新規出店 ✓ 既存・新規教室ともに生徒数が拡大
アドテク事業 [UMT]	686 百万円 YoY+1%	170 百万円 YoY+3%	✓ 広告在庫の拡大・広告システム改善により広告取扱高が拡大
育成中事業	1,161 百万円 YoY△47%	18 百万円 YoY+313百万円/黒字転換	✓ 事業ポートフォリオ組み換え影響を除くと増収・黒字転換

※1 前期に㈱ブリューアスのIT教育事業を譲渡、今期からフォッグ㈱が持分法適用会社へ異動。両者の前期上期（累計）業績：売上高1,165百万円、営業損失△202百万円。
※2 本資料上では「YoY」は2026年3月期上期（累計）と 2027年3月期上期（累計）の比較。

2027年3月期上期（累計）｜連結業績

売上高は、事業ポートフォリオ組み換えの影響※1を除くとYoY＋27%の増収。
営業利益は、黒字転換。前期上期からYoY+778百万円で着地。

（単位：百万円）	2026年3月期 上期（累計）	2027年3月期 上期（累計）	YoY
売上高	4,313	**4,012**	△7%
営業利益	△690	**87**	+778
経常利益	△720	**63**	+784
純利益※2	△626	**227**	+853

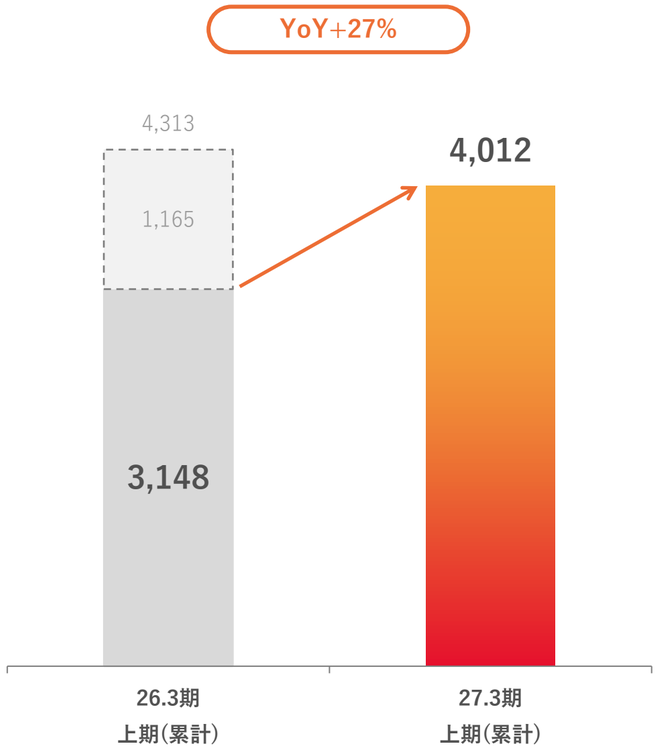
※1 前期に㈱ブリューアスのIT教育事業を譲渡、今期からフォッグ㈱が持分法適用会社へ異動。両者の前期上期（累計）業績：売上高1,165百万円、営業損失△202百万円。
※2 第1四半期においてフォッグ㈱の株式売却にともなう特別利益を、第2四半期においてストックオプション行使期限を迎えたことによる特別利益を計上。

2027年3月期上期（累計）｜事業ポートフォリオ組み換えの影響を除いた前期比較

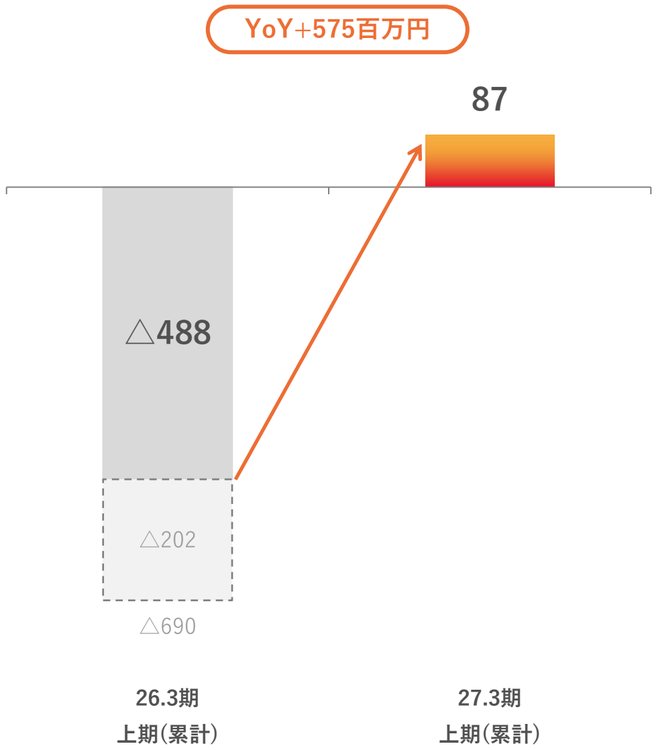
主に投資事業の保有有価証券の売却により、増収・黒字転換。

売上高（単位：百万円）

事業ポートフォリオ組み換えの影響額



営業利益（単位：百万円）



2027年3月期上期（累計）｜業績予想に対する進捗

上期は業績予想に対して計画通りに進捗。
下期に教育事業（㈱ベストコ）・アドテク事業（UMT）が伸長する見通しであり、
投資事業も保有有価証券の売却を計画していることから、通期では業績予想の範囲内での着地を見込む。

（単位：百万円）	2027年3月期 業績予想	2027年3月期 上期（累計）
売上高	7,800～8,200	4,012
営業利益	0～200	87
経常利益	0～100	63
純利益	0～50	227

2027年3月期 中間配当

配当方針「DOE5%または連結配当性向50%のいずれか大きい金額」にもとづき、配当予想どおり1株当たり11円に決定。

配当の内訳

	2027年3月期		2026年3月期	
	中間	期末(予想)	中間	期末
基準日	2026年9月30日	2027年3月31日	2025年9月30日	2026年3月31日
1株当たり配当金(半期)	11円	11円	11.5円	11.5円
DOE(年間)	5.0% （予想）		5.0%	

アジェンダ

1　2027年3月期 上期（累計）決算概要 p.4

2　2027年3月期 第2四半期 事業概況 p.10

3　Appendix p.27

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、
実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

投資事業

スタートアップ投資

投資事業｜業績予想に対する進捗

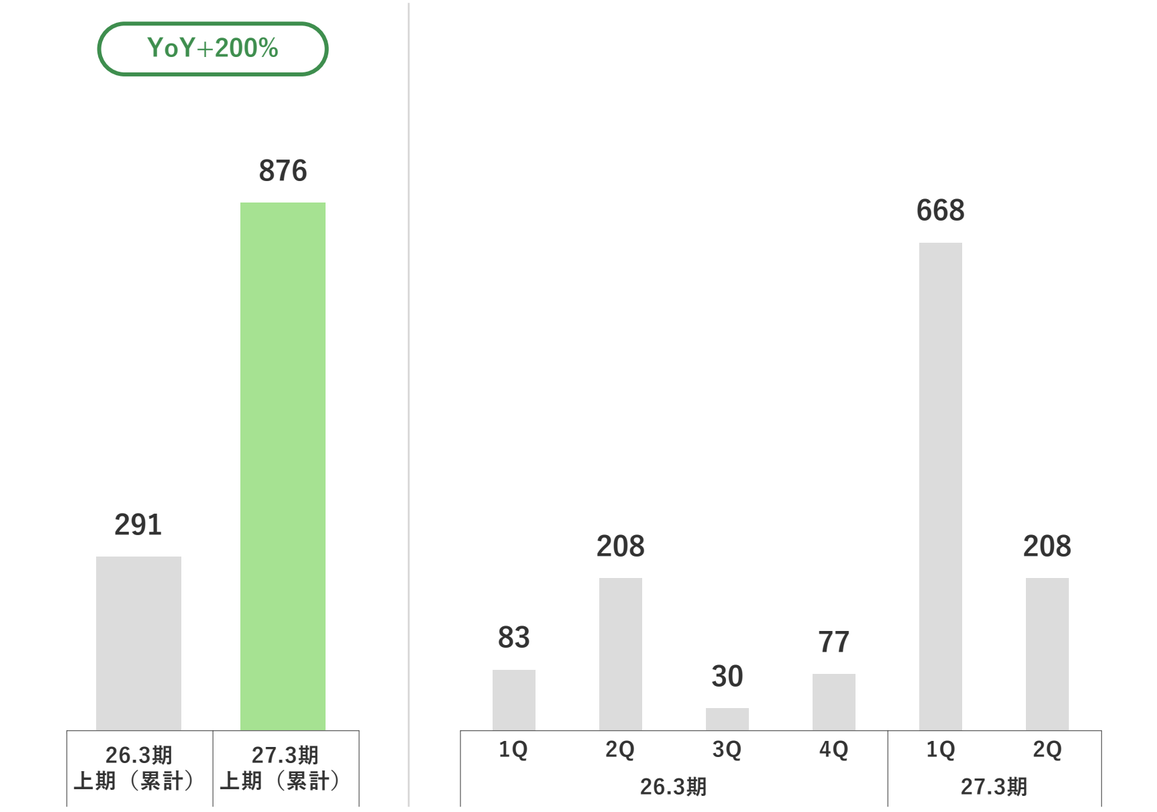
保有有価証券の売却により、上期時点で売上高80%、営業利益69%の進捗で推移。
通期では業績予想通りの着地を見込む。

（単位：百万円）	業績予想	2027年3月期 上期（累計）	進捗率	2026年3月期 上期（累計）	YoY
売上高	1,100	**876**	80%	291	+200%
営業利益	700	**484**	69%	△33	+518

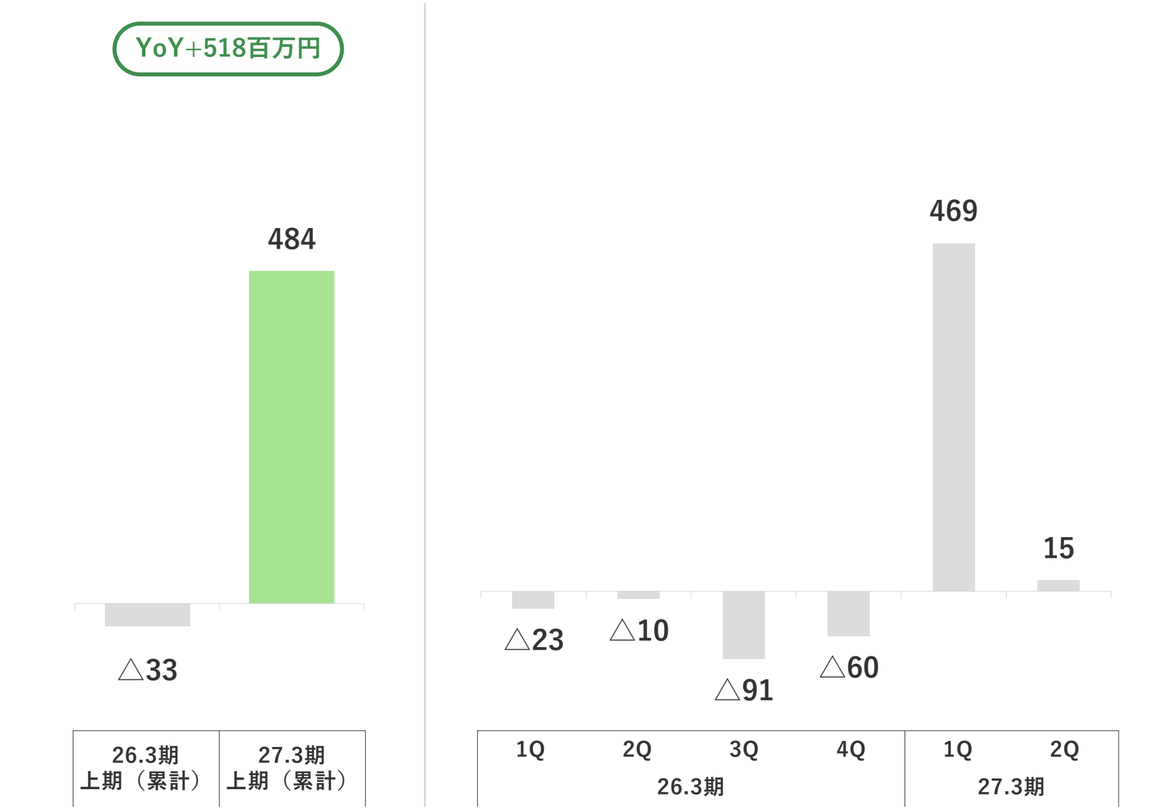
投資事業｜売上高・営業利益推移

保有有価証券の売却により、上期はYoYで増収・黒字転換。
事業特性上、保有有価証券の売却時期・規模によりボラティリティが大きくなる。

売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）



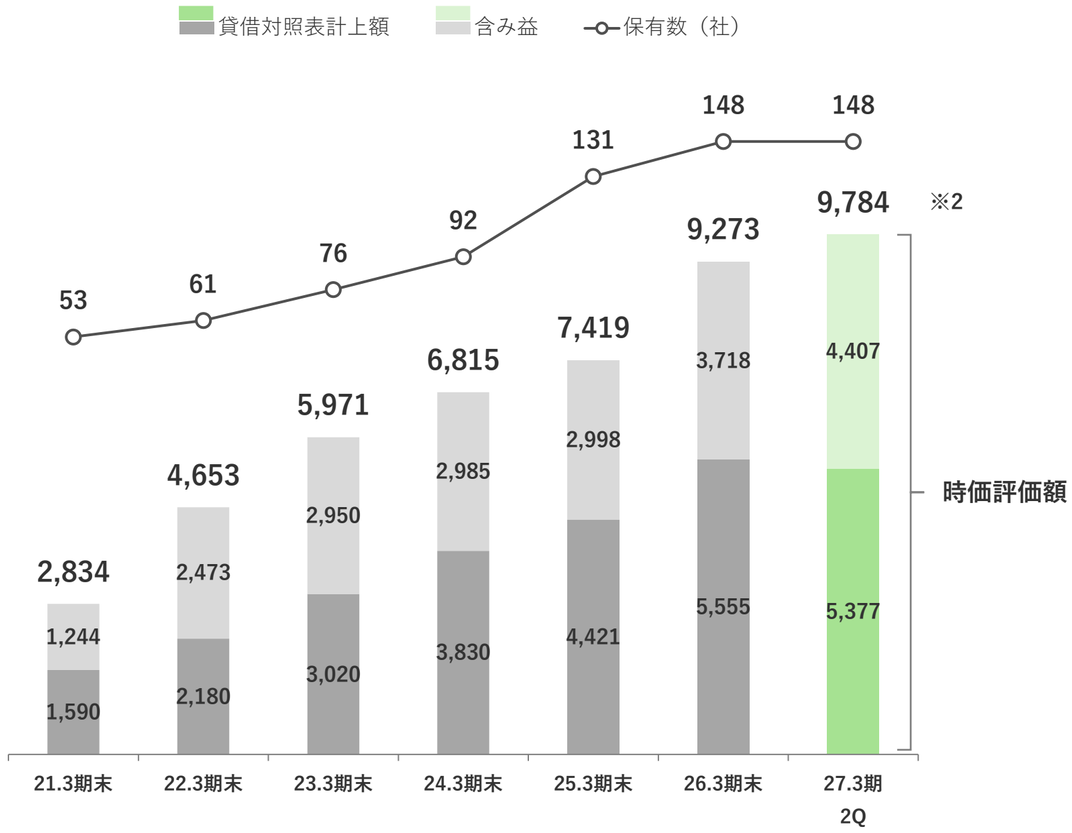
投資事業｜保有有価証券の保有状況

2026年9月末時点で未上場株式を148社保有しており、時価評価額は97億円※1。

営業投資有価証券残高内訳

	投資先	2026年9月末 貸借対照表計上額
未上場株式	148社	53億円
上場株式	•メルカリ •ワンダープラネット •サイバー・バズ •ソーシャルワイヤー •エキサイトホールディングス •コンフィデンス・インターワークス	8億円
LP出資先	50本	21億円

保有する未上場株式の時価評価（単位：百万円）



※1 発行体からの直近の報告をもとに算出。
※2 未上場株式は、原則、取得原価等で計上するため時価評価額と貸借対照表計上額で差額が発生。差額約44億円(含み益)は連結純資産(2026年9月末：169億円)には未反映。

投資事業｜2027年3月期の取り組みと進捗

上期は、AIおよび社会課題領域に出資するファンドなどに2.1億円の投資実行。
イグジットの実績としては7.7億円の売却を実行。下期も継続した利益創出のための売却を計画。

新規投資：上期に2.1億円の投資実行

AIスタートアップへの投資と善進投資※へ注力　年間10億円の投資実行を計画

投資事例

	RICE CAPITAL	taliki
概要	米国中心にAIスタートアップ等に出資するファンド	社会課題解決型スタートアップへ出資するファンド
出資背景	キャピタルゲインを見込むとともに、海外AIスタートアップの情報を収集し、ソーシングにも活用	キャピタルゲインを見込むとともに、善進投資先のソーシングにも活用

イグジット：上期に7.7億円の売却

IPOだけでなく、多様な手段を用いた保有有価証券の売却を実行

上場株式	銘柄ごとに定めた売却基準にもとづき市場で売却
未上場株式	上期はセカンダリーでの売却を実行 IPOに限らず、M&A・セカンダリーなど多様なイグジット方法で利益創出

※ 社会課題の解決と事業性の両立を目指すスタートアップへ投資するユナイテッド独自の取り組み。

教育事業

㈱ベストコ

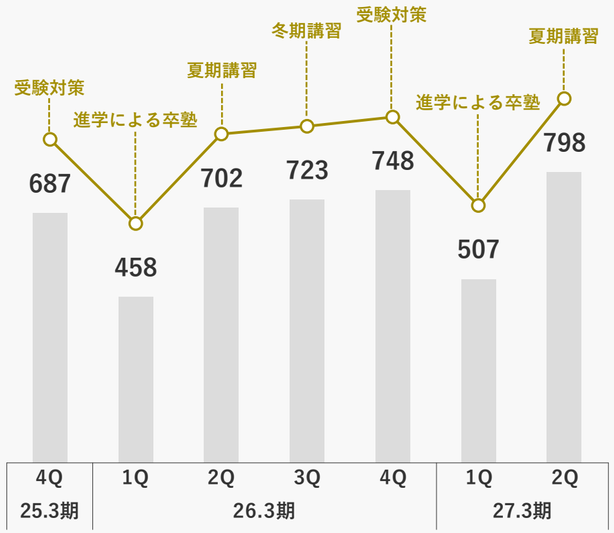
個別指導学習塾の運営

㈱ベストコ｜業績予想に対する進捗

上期は計画通りに進捗。
営業利益は新規教室出店の先行投資により営業損失を計上したが、
下期は季節性により売上高が伸長する見通しであり、通期では業績予想通りの着地を見込む。

（単位：百万円）	業績予想	2027年3月期 上期（累計）	進捗率	2026年3月期 上期（累計）	YoY
売上高	3,170	**1,306**	41%	1,160	+13%
営業利益	0	**△107**	-	△46	△60

参考：季節性による売上高トレンド
（単位：百万円）

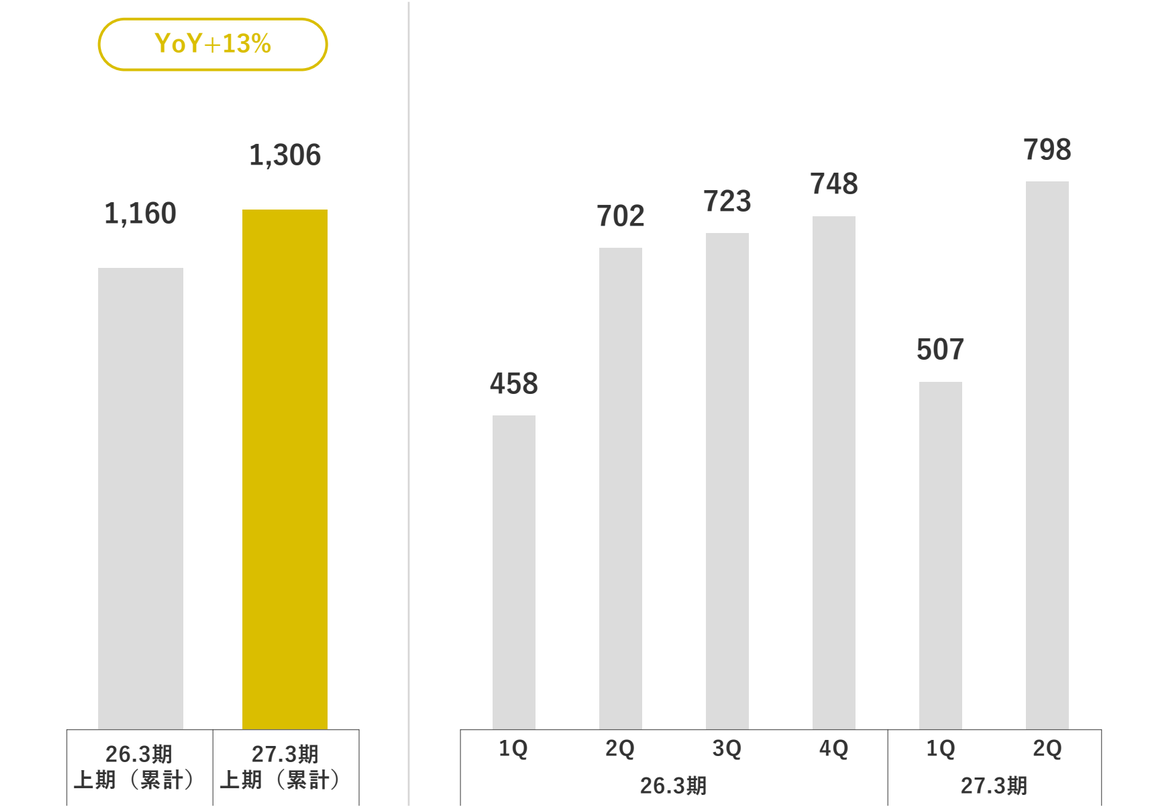


進学時期に卒塾が一定発生するため、
毎期1Qが売上高のボトムとなる
第2Q以降、季節講習や受験対策などにあわせて業績が伸長

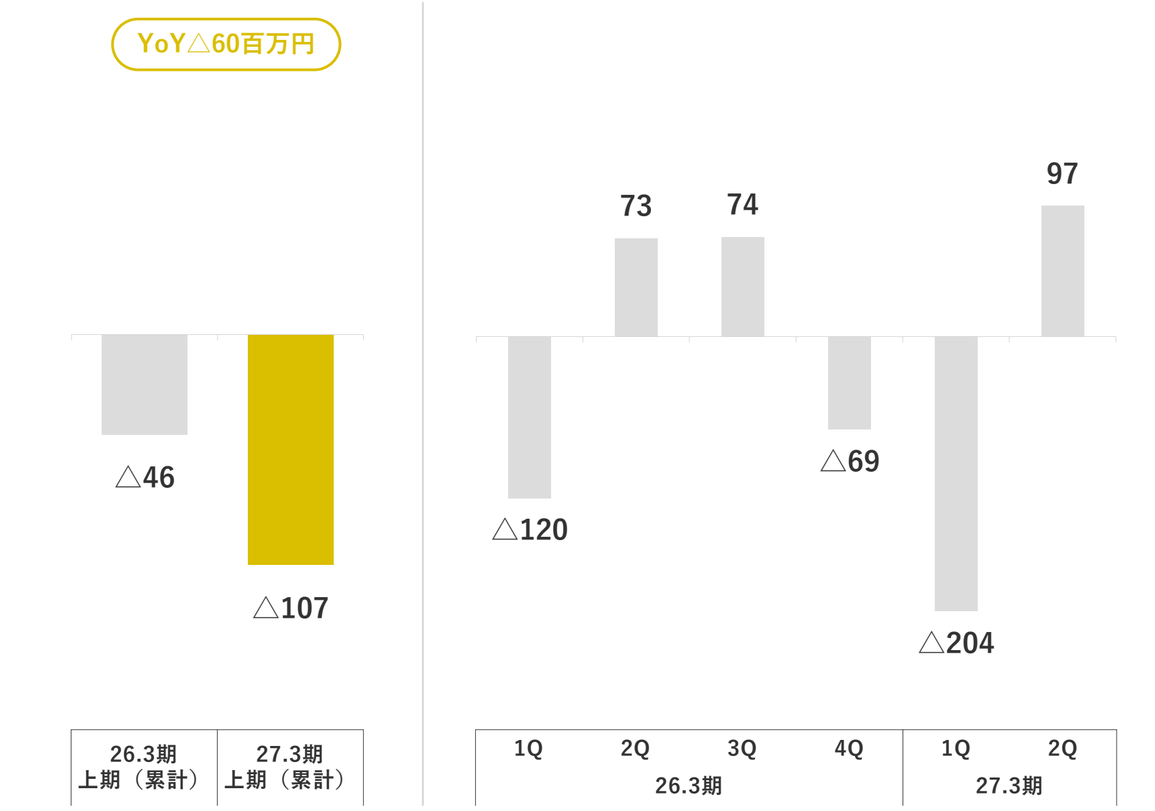
㈱ベストコ｜売上高・営業利益推移

売上高は、新規教室の出店と１教室あたりの生徒数増加により、上期はYoY+13%増収。
営業利益は、新規教室の出店数（前期上期6教室→今期上期14教室）を増加させたことにより、上期はYoYで営業損失が拡大。

売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）



㈱ベストコ｜売上高の成長に向けた今期の取り組みと進捗

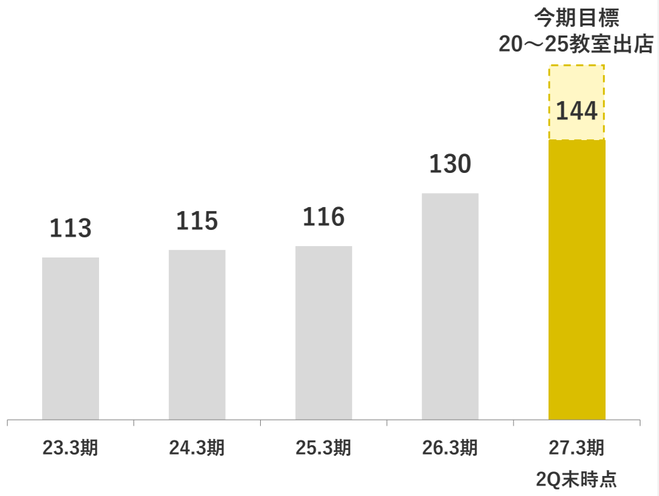
新規出店による教室数の拡大と、1教室あたりの生徒数の拡大により売上高の拡大を目指す。

売上高	＝ 教室数	× 1教室あたりの生徒数	× 単価
今期の取り組み	✓ 新規地方・新規県への出店 ✓ 年間20～25教室の出店	✓ 既存教室：高校生領域の強化 ✓ 新規教室：スムーズな立ち上げによる生徒集客	✓ 競合より低い水準を維持

進捗

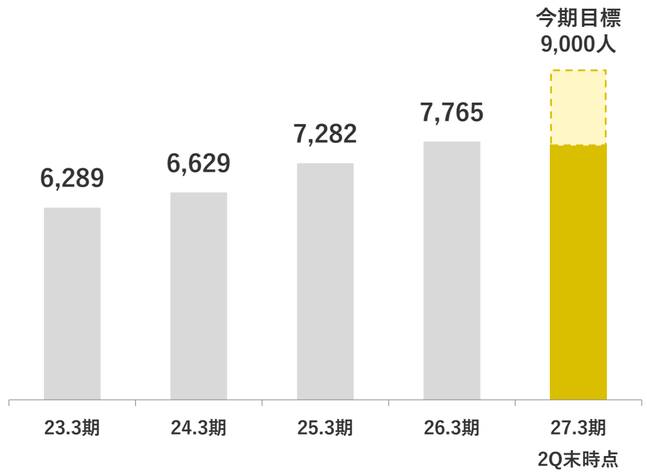
教室数推移

上期：14教室出店（東北/北関東/中国・四国）
下期：6~11教室の出店を計画



生徒数推移

既存教室：中学生→高校生の継続率が増加（YoY+2.7%）
新規教室：出店数の拡大により生徒数増加



1教科あたりの授業料/月※1 比較

直営展開により、競合よりも低価格でサービス提供可能

ベストコ	競合他社A※2
9,900円	14,000円

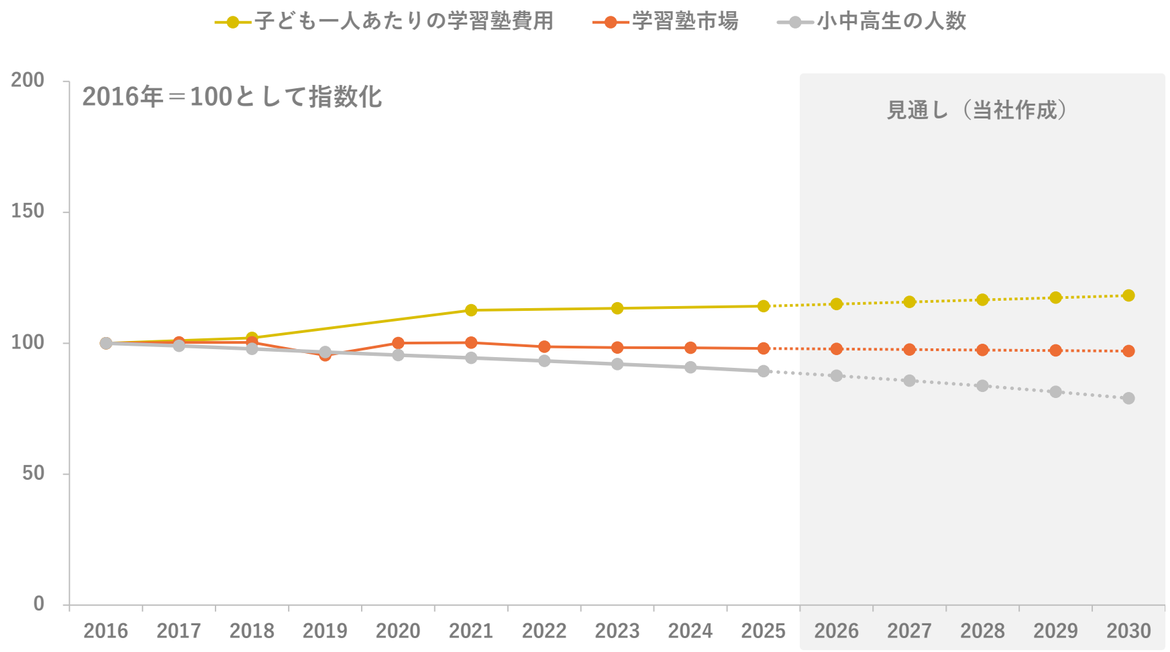
※1 中学1年生・月4回の通塾を基準とする。
※2 上場企業が運営する個別指導塾　出典）ダイヤモンド・オンライン https://diamond.jp/educate/articles/juku-hiyou/59/

㈱ベストコ｜学習塾の市場環境とベストコの成長余地

学習塾の市場規模は横ばいで推移。一人当たりの学習塾費用の上昇が続く前提で、今後も横ばいの見通し。
地方では、小中高生の半数以上が居住しているのに対し、通塾が進んでおらず、通塾する生徒数に占める割合は42%にとどまる。
ベストコでは、この差を成長余地と捉え、地方での新規出店を加速させ成長を目指す。

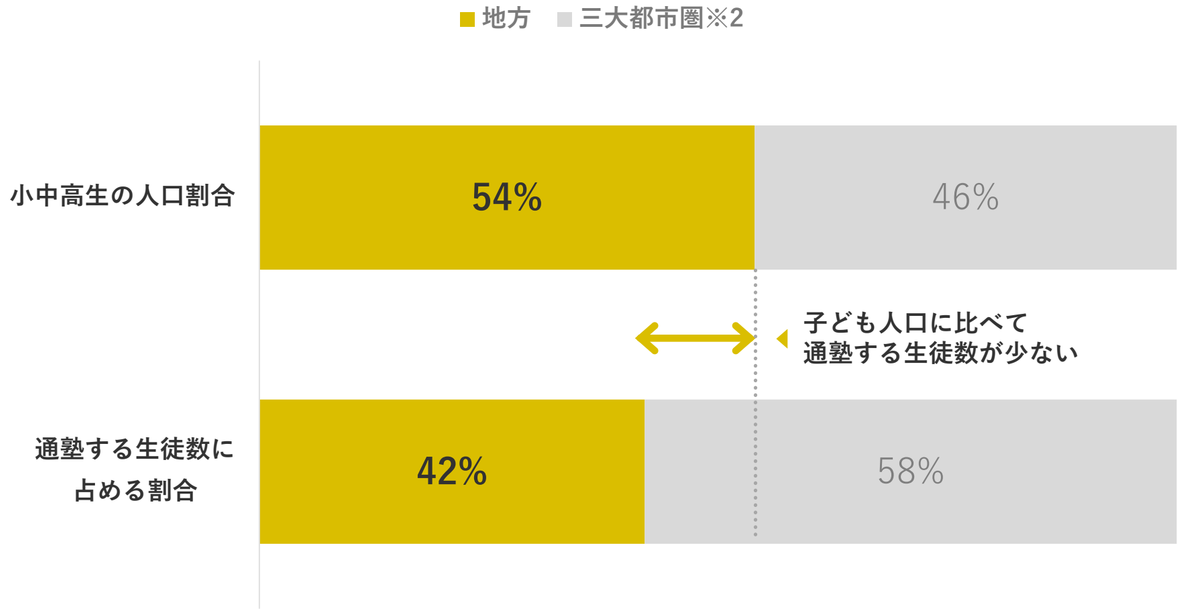
学習塾の市場規模と見通し

少子化の中、一人あたりの学習塾費用の上昇により、
市場規模（2025年度で9,520億円※1）は横ばいで推移。
学習塾費用の上昇が続く前提で、今後も市場規模は横ばいの見通し。



子どもの数と通塾する生徒数

小中高生の54%は地方にいる一方、通塾する生徒数に占める割合は42%にとどまる。



※1 矢野経済研究所「2025年版 教育産業白書」
※2 本資料上は人口上位の東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、大阪府、兵庫県として定義。
左図出典：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」、文部科学省「学校基本調査」「子供の学習費調査」、厚生労働省「人口動態統計」より当社作成。
右図出典：総務省「住民基本台帳」（2025年1月1日）、「経済センサス - 活動調査」（2021年・個人経営を除く）より当社作成。

㈱ベストコ｜成長モデル

地方での出店と全教室直営による運営を組み合わせ、新規出店を継続的に行える成長モデルを確立。
これにより新規出店を続け、教室数・生徒数を拡大する。

出店エリア

競合他社	ベストコ
都市部：駅前に集中 賃料など出店コストが高い	**地方：学校周辺、住宅街、ロードサイド等** **低コストの出店が可能**

出店先	地方の学校周辺、住宅街、ロードサイド等
通いやすさ	学校や自宅から通いやすい立地
価格	低コストの出店により、競合より低い価格でサービス提供

×

運営形態

競合他社	ベストコ
フランチャイズ展開 教室ごとに提供サービスの品質が異なる	**全教室直営** **提供サービスの品質が均一**

全教室直営	フランチャイズ展開はせず、全教室直営で展開
提供サービスの品質均一	直営によるオペレーションの統一により、 全教室で提供サービスの品質均一化
採用・育成	地域の大学生のアルバイト採用から社員登用する取り組みを強化し、 安定的な採用活動を実施

アドテク事業

ユナイテッドマーケティングテクノロジーズ㈱（UMT）

アドテクプロダクトの運営

UMT｜業績予想に対する進捗

上期は計画通りに進捗。
過年度の業績トレンドから下期以降、売上高・営業利益が伸長する見通しであり、通期では業績予想通りの着地を見込む。

（単位：百万円）	業績予想	2027年3月期 上期（累計）	進捗率	2026年3月期 上期（累計）	YoY
売上高	1,430	**686**	48%	681	+1%
営業利益	360	**170**	47%	166	+3%

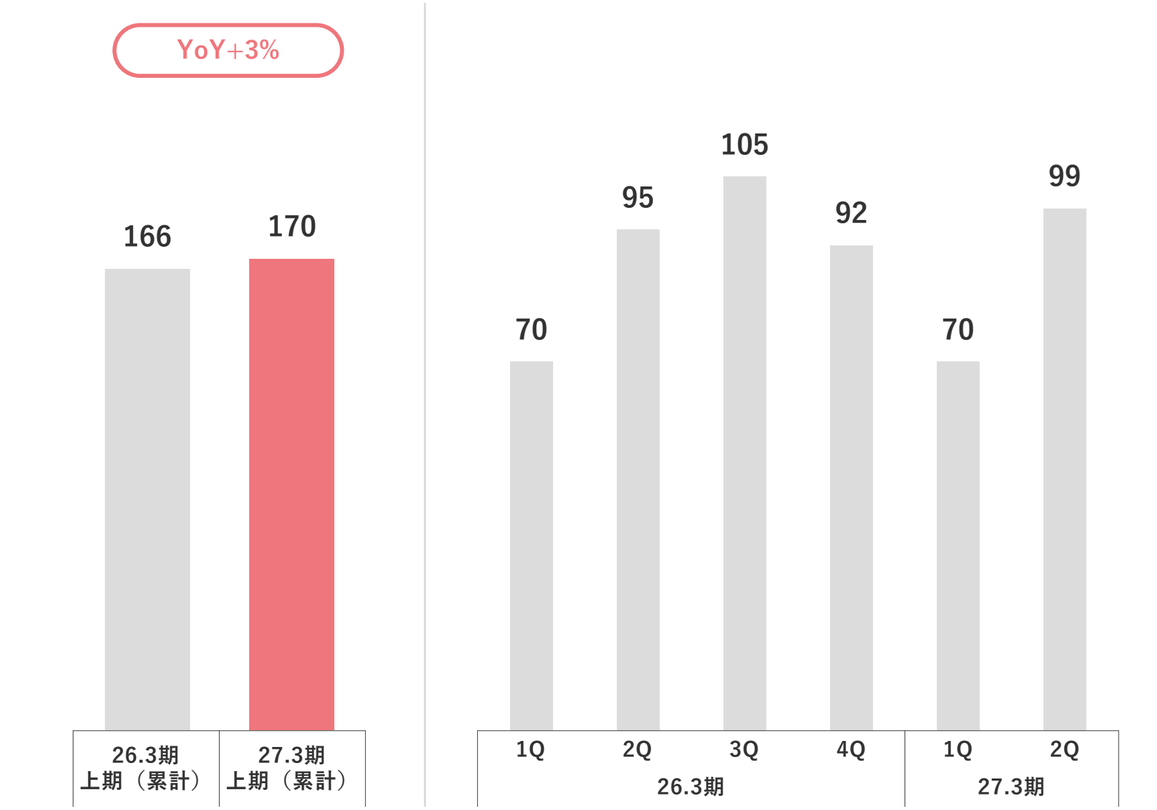
UMT｜売上高・営業利益推移

売上高、営業利益ともに上期はYoYで同水準で推移し、安定的に利益創出。

売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）



UMT｜事業の特徴（メガプラットフォーマーとの棲み分け）

メガプラットフォーマーが網羅しきれない領域に特化することで、顧客ニーズを捉え独自のポジションを確立。

メガプラットフォーマー

（Google・Meta・LINEヤフー 等）

対象	あらゆる業種・商材の広告主
配信面	自社プラットフォーム内が中心（検索・SNS・動画）
対応	標準化された機能を大量の広告主に提供

UMT

メガプラットフォーマーが網羅しきれない領域に特化

対象	特定領域の広告主
配信面	多様なアドネットワーク・媒体 （Web・アプリ・コネクテッドTV/デジタル屋外広告）
対応	取引先ごとにビジネスモデル・システム環境に合わせて個別対応

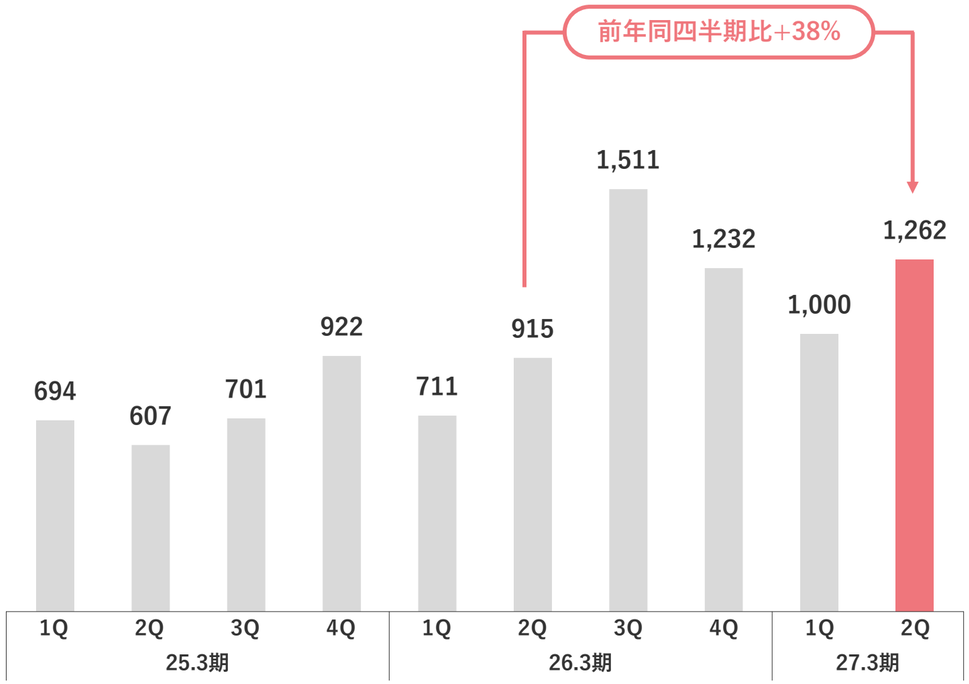
UMT｜2027年3月期の取り組みと進捗

コネクテッドTV/デジタル屋外広告への対応が進捗し、第2四半期の広告取扱高が12億円（前年同四半期比+38%）に拡大。

取り組みの進捗

新たな 広告媒体への対応	■ 取扱高におけるコネクテッドTV/デジタル屋外広告への 配信割合が46%に拡大（前年同四半期比＋19%）
AI活用による 生産性の向上	■ 開発速度が向上 ■ 広告運用の自動化による、 運用品質の均一化にも継続して取り組む

広告取扱高※推移（単位：百万円）



※ 旧収益認識基準のグロス売上高。

アジェンダ

1　2027年3月期 上期（累計）決算概要 …… p.4

2　2027年3月期 第2四半期 事業概況 …… p.10

3　Appendix …… p.27

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、
実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

2027年3月期上期（累計）｜連結損益計算書

（単位：百万円）	2026年3月期 上期（累計）	2027年3月期 上期（累計）	YoY
売上高	4,313	**4,012**	△7.0%
売上総利益	1,417	**1,784**	+25.9%
販売費及び一般管理費※	2,108	**1,697**	△19.5%
営業利益又は営業損失(△)	△690	**87**	-
営業外収益	26	**27**	+3.3%
営業外費用	56	**51**	△9.0%
経常利益又は経常損失(△)	△720	**63**	-
特別利益	0	**251**	-
特別損失	14	**0**	-
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	△735	**314**	-
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△626	**227**	-

※ 事業ポートフォリオの組み換えにより人件費が減少。

2027年3月期第2四半期｜連結損益計算書(事業別)

（単位：百万円）	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同四半期比 金額	前年同四半期比 率
売上高	2,354	**1,963**	△ 390	△ 17%
投資事業	208	**208**	+0	+0%
㈱ベストコ	702	**798**	+96	+14%
ユナイテッドマーケティングテクノロジーズ㈱	355	**352**	△ 2	△ 1%
育成中事業	1,091	**613**	△ 477	△ 44%
売上総利益※1	816	**820**	+4	+1%
投資事業	22	**51**	+28	+127%
㈱ベストコ	346	**400**	+53	+16%
ユナイテッドマーケティングテクノロジーズ㈱	180	**185**	+4	+2%
育成中事業	269	**192**	△ 76	△ 28%
販売費及び一般管理費	1,013	**799**	△ 213	△ 21%
営業利益又は営業損失(△)	△ 196	**21**	+217	-
投資事業	△ 10	**15**	+26	-
㈱ベストコ	73	**97**	+23	+32%
ユナイテッドマーケティングテクノロジーズ㈱	95	**99**	+4	+5%
育成中事業	△ 125	**30**	+155	-
経常利益又は経常損失(△)	△ 211	**5**	+217	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 231	**11**	+243	-

※1 各事業の主な売上原価は広告費、外注費、人件費。

2027年3月期｜第2四半期 連結貸借対照表

（単位：百万円）	前期末 （2026年3月末）	当四半期末 （2026年9月末）	前期末差額
流動資産	17,139	**16,465**	△674
現預金	5,963	**5,928**	△34
有価証券※1	-	**993**	+993
営業投資有価証券※2	9,066	**8,310**	△755
固定資産※1	2,909	**1,974**	△935
のれん	388	**336**	△51
資産合計	20,048	**18,439**	△1,609
流動負債※3	1,885	**1,281**	△604
固定負債	398	**175**	△223
繰延税金負債	329	**116**	△213
負債合計	2,284	**1,456**	△828
純資産	17,764	**16,983**	△781
その他有価証券評価差額金※2	528	**47**	△481

※1 余資運用の債券のうち、1年以内に満期となるものを固定資産から流動資産へ振替。
※2 保有有価証券の売却により、営業投資有価証券、およびその他有価証券評価差額金が減少。
※3 フォッグ㈱を持分法適用関連会社へ異動したことにより、同社の資産・負債が減少。

キャッシュ・フロー計算書

黒字化と法人税等の還付により、営業キャッシュ・フローはプラスに転換。

（単位：百万円）	2026年3月期 上期累計期間	2027年3月期 上期累計期間	YoY
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,834	**722**	+2,557 ※1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△92	**△303**	△211
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,100	**△453**	+1,647 ※2
現金及び現金同等物の期末残高	8,584	**5,928**	△2,655

※1 前期の営業CFのうち、法人税等支払額は451百万円。今期の営業CFのうち法人税等の支払いと還付の差引額は511百万円。
※2 前期の財務CFのうち、自己株式の取得による支出は1,129百万円、配当金による支出は942百万円。今期の財務CFのうち配当金による支出は430百万円。

2027年3月期上期（累計）｜事業別業績

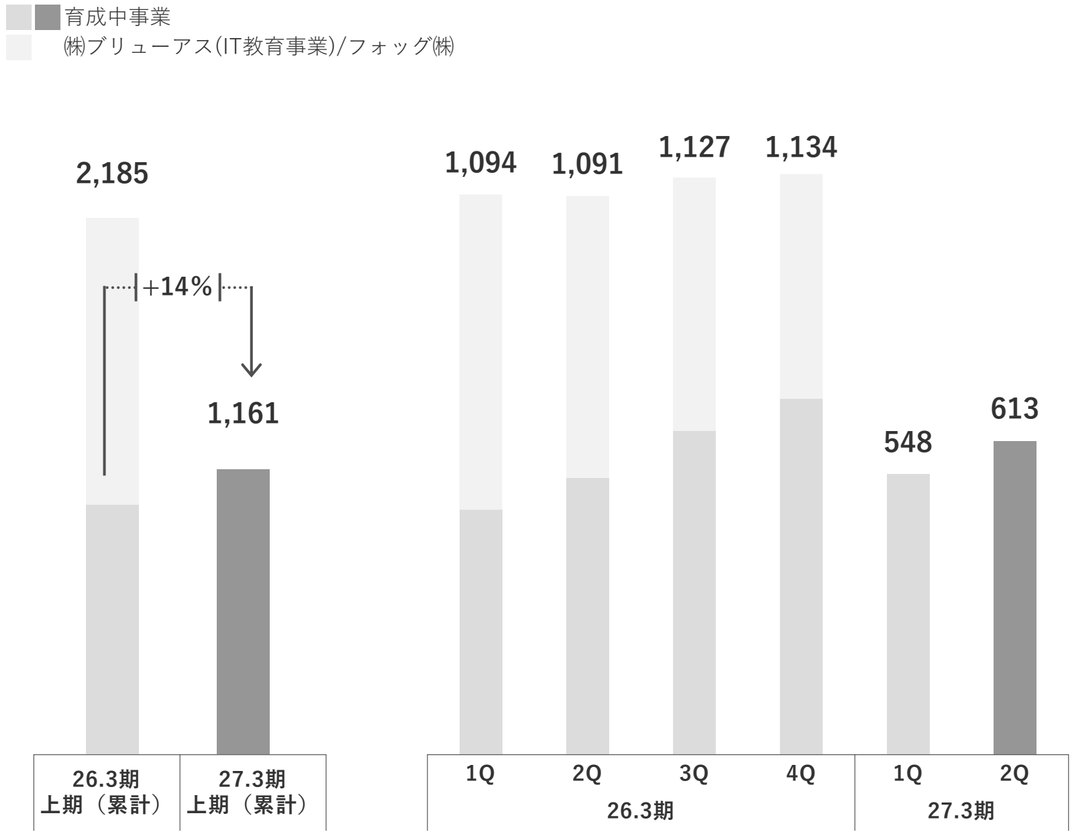
（単位：百万円）

事業		業績予想	2027年3月期 上期（累計）	進捗率	2026年3月期 上期（累計）	YoY
投資事業 中核	売上高	1,100	876	80%	291	+200%
	営業利益	700	484	69%	△33	+518
教育（㈱ベストコ） 中核	売上高	3,170	1,306	41%	1,160	+13%
	営業利益	0	△107	-	△46	△60
アドテク（UMT） 中核	売上高	1,430	686	48%	681	+1%
	営業利益	360	170	47%	166	+3%
育成中事業	売上高	2,500	1,161	46%	2,185	△47%
	営業利益	160	18	12%	△294	+313
参考｜ポートフォリオ組み換えの影響額	売上高	-	-	-	1,165	-
	営業利益	-	-	-	△202	-

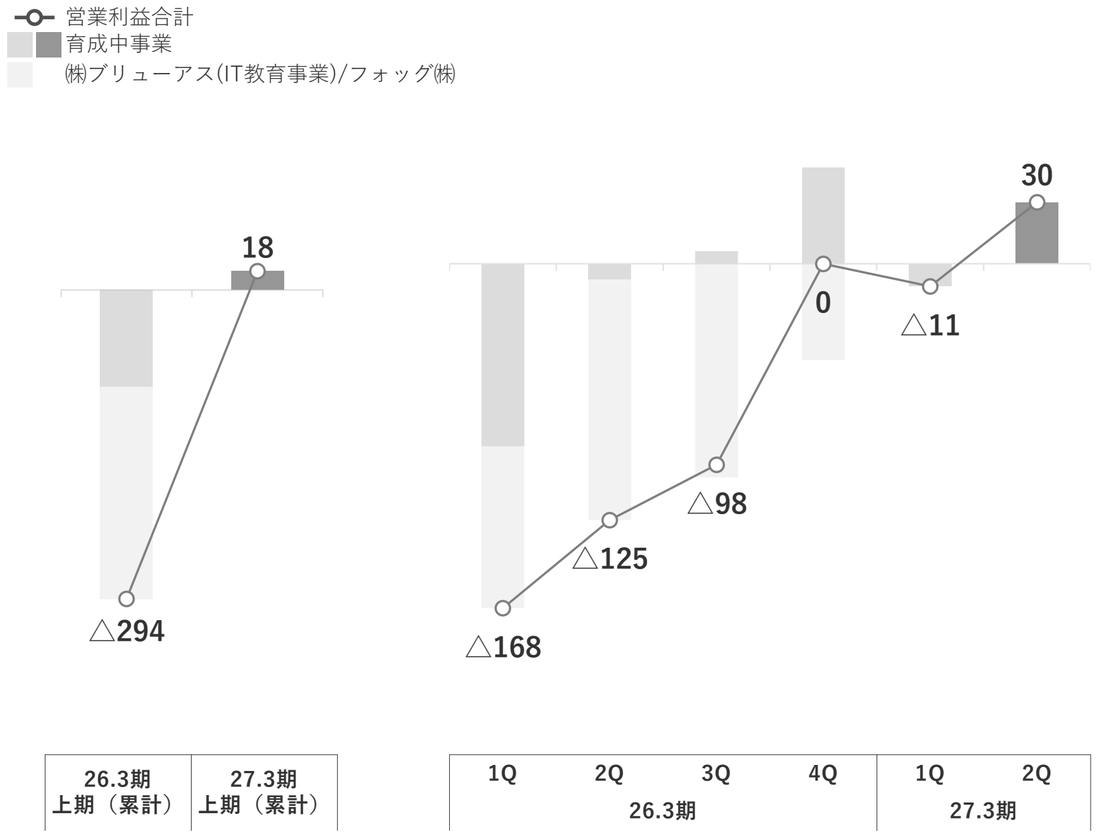
育成中事業｜売上高・営業利益推移

売上高は、事業ポートフォリオ組み換え影響※を除くと、育成中事業全体で上期YoY+14%の増収。
営業利益は、同影響に加え、育成中事業全体の利益改善により、上期はYoYで黒字転換。

売上高推移（単位：百万円）

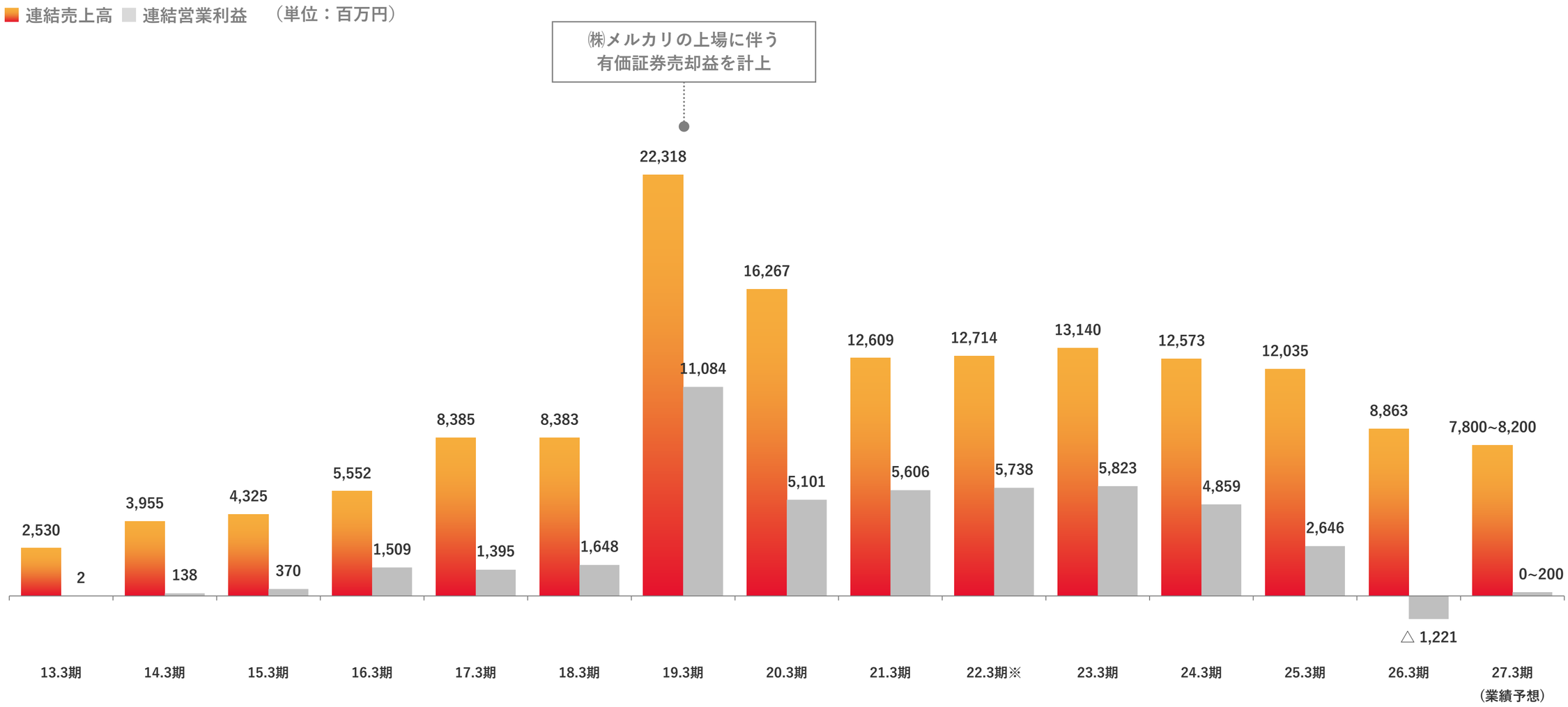


営業利益推移（単位：百万円）



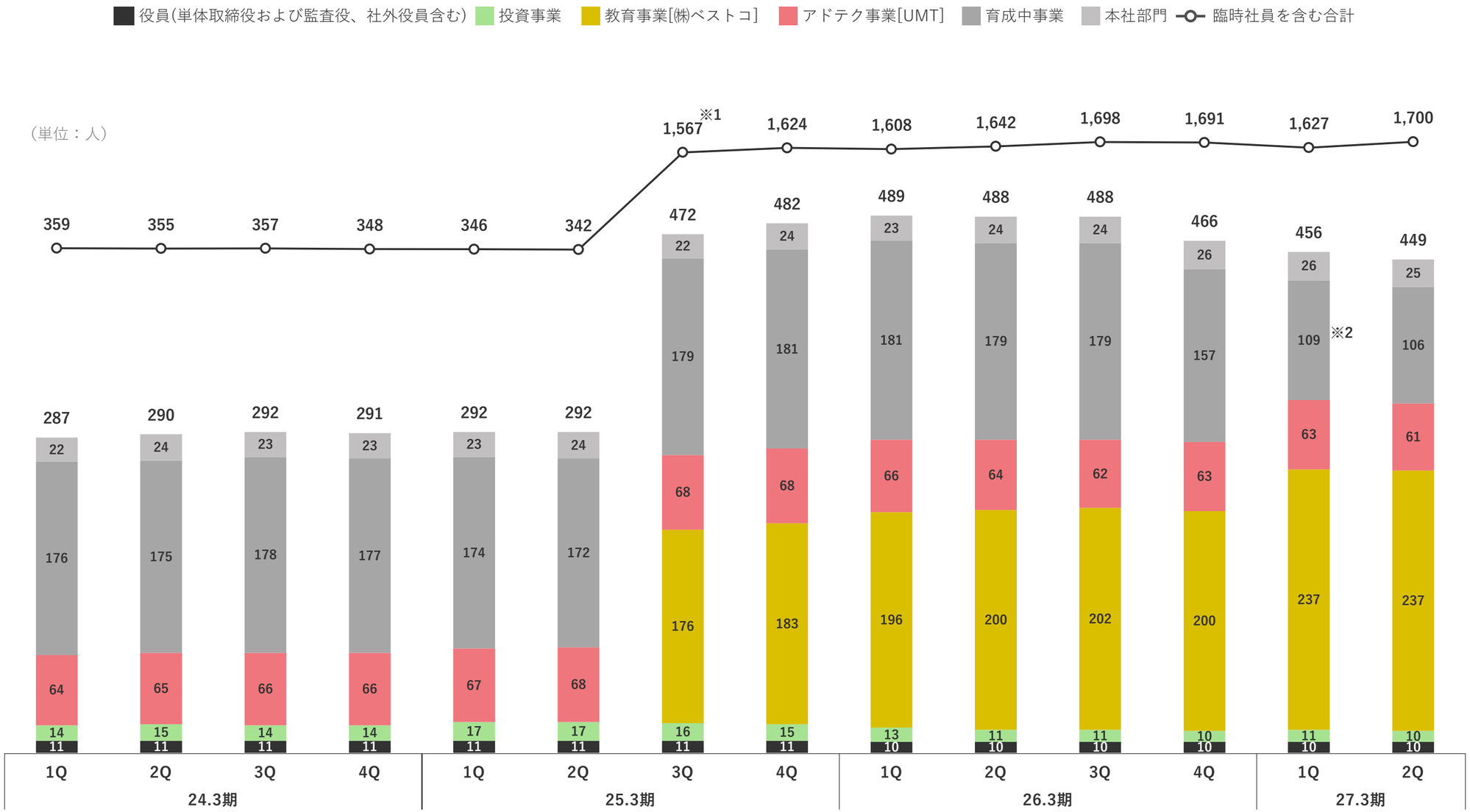
※ 前期に㈱ブリューアスのIT教育事業を譲渡、今期からフォッグ㈱が持分法適用会社へ異動。両者の前期上期（累計）業績：売上高1,165百万円、営業損失△202百万円。

業績推移(2013年3月期~2027年3月期)



※ 2022年3月期からの新収益認識基準(企業会計基準第29号「収益認識に関する会計基準」および企業会計基準適用指針第30号「収益認識に関する会計基準の適用指針」)適用に伴い、比較の容易性を高めるため、当資料内においてはアドテクノロジー事業の過年度業績について同基準を適用し、集計・記載。

連結役職員数の推移



※1 ㈱ベストコの連結により、教育事業の正社員、臨時社員が増加。
※2 ㈱ブリューアスのIT教育事業を事業譲渡、およびフォッグ㈱の持分法適用会社への異動により役職員数が減少。

意志の力を最大化し、
社会の善進を加速する。

自らをより前に進める人。
社会をより前に進める事業。

社会は、意志ある人、意志ある事業によって
より善い方向へと進化していく。

強い意志こそが、
社会を善い方向へと変えていく
エネルギーそのもの。

UNITEDは、
そのエネルギーを、意志の力を、最大化させる。

意志ある人に、知恵と機会を。
意志ある事業に、資金とノウハウを。
そして、両者が出会い、
互いの成長が、さらなる成長を生む。
成長の連鎖で、社会を満たしていく。

意志の力で社会を善い方向へ、
より速く進めていく。

意志の力を最大化し、
社会の善進を加速する。

IRの取り組み

IRでは、当社へのご理解を促進していただくために、以下の取り組みを行っております。
今後も取り組みを強化してまいります。

第三者レポート

シェアードリサーチ社による
第三者視点の企業分析レポートを公開しています

Shared Research　シェアードリサーチ社による当社の調査レポート（無料）

https://sharedresearch.jp/ja/companies/2497

noteでの発信

決算説明資料だけでは伝えきれない情報をお伝えする場として
経営者ブログやIR情報を発信しています

note

https://note.com/united_ir

決算説明会の書き起こし

投資家の皆様へ素早く、且つ丁寧に情報共有できるよう、
決算説明会の書き起こしを公開しています

logmi Finance

https://finance.logmi.jp/companies/1754

個人投資家様向けセミナーの実施

個人投資家のみなさまに
当社へのご理解を深めていただける場を用意しています
次回：11月28日（土）

logmi Finance

https://finance.logmi.jp/search?tags=個人投資家向け説明会


UNITED